



# 国労せんだい

No. 2647  
2013年4月20日  
発行責任者 大沼 元  
編集責任者 武田 昌仙

3・15  
3・21  
3・23

第7回地本執行委員会  
団交（申26号 総合車両センター業務改善）  
貨物新賃金低額回答に対する申入れ  
貨物ベアゼロ回答に抗議する緊急集会  
原発いらない！福島県民大集会

3・28  
4・6  
4・9  
4・13

団交（ダイヤ改正 職場環境積み残し）  
第34回安プロ・第25回支部業務部長会議  
第8回執行委員会  
第46回アスベスト対策委員会  
雪害輸送障害を検証する交流会（若松）

## 原発のない福島を！県民大集会！

## 地本から百人が参加 全国から七千人が集結

東日本大震災と福島第一原発事故から2年を機に「原発いらない福島を！県民大集会」が3月23日、福島市あづま総合体育館で開催された。集会会場には全国から7千人以上が参加し、「原発のない福島」「安心して暮らせる福島」を目指し、原発依存からの脱却を誓った。



会場を埋め尽くす人々。原発不要の熱気に溢れていた

集会は二部構成で行われ、一部のアトラクションでは民族芸能が披露され、会場の参加者からは激励を込めた拍手が惜しみなく送られた。会場内の展示コーナーでは原発事故の惨状を示す写真等が展示され多くの人が足を止め見入っていた。会場の外では福島の特産品や飲食物が販売され参加者は積極的に購買していた。

### 原発再稼働の無責任さに憤り！

一部の県民大集会では、主催者を代表し五十嵐史郎氏は、「震災と原発事故から2年、様々な努力がなされてきたが成果は実感できない。復旧・復興をはじめ、除染も進まず生活に見通しが立たない。一方原発災害の報道も減り、風化の兆しと原発再稼働の動き。県民は原発の爆発で人生を狂わされた。核と人類は共存できない。核廃棄物の処理法も処分場もないのに原発稼働を始めた無責任さに改めて憤りを感じる。放射能の不安のない未来をつくる責



多くのボランティアスタッフが集会を支える

任と義務が我々にある。参加者の意志を結集し全国に発信しよう」と強調した。集会の呼びかけ人を代表し清水修三福島大学教授は、「福島では県議会全てが一致し福島原発の廃炉を決議し、知事も原発のない福島県を目指す」と表明。こんな県は福島だけであり、県内は原発を再び動かすという選択肢はない。脱原発は民意であり、原発を止めることとできる」と福島県民が一致して脱原発を目指すよう呼びかけた。

## 踏切鳴動持続時の扱いに変更

## 団体交渉の成果 課題残すも一歩前進

11年2月に発生したJR東日本新潟支社の飯山線大根原踏切における列車と踏切通行車両の衝突事故を受け、仙台支社は仙支総第168号の連絡文書を出し、各現場での説明を実施していた。しかし、その具体的な取扱いでは抑止手配に時間がかかりすぎるなど、実態とかけ離れたものであり現場では「机上の文書だ」との意見が相次いでいた。地方本部はこうした組合員・職場の声や意見を集約し、国労仙地申7号を提出。1月28日、鋭意交渉を行った。その結果（支社は取扱い訓練の振り返りを受け見直ししたとしている）、支社は「運転取扱細部指導集の一部改正について」（仙支総第3636号・平成25年3月19日）という通達文書を発し、関係社員への周知を指示している。改正点の大きな柱は2点。一つは「輸送指令」が「輸送指令等」へ変更になったこと。これまで取扱窓口に仙台総合指令室輸送指令に限定されていたため抑止手配に時間を要していたが、今後は直接当該線区の運行管理する輸送指令との協議が可能になり時間短縮が期待できる。もう一つは、踏切鳴動持続時の例外的取扱いとして、これまでの①緊急自動車の進来時、②交通渋滞による警察からの改善要請時、③係員に対する暴力行為の危険時に加えて、「現地の係員の情報に基づき支社対策本部もしくは指令間協議で通行せざるを得ないと判断した場合」が追加されたこと。これにより現場からの要請に基づき指令等が判断した場合は通行者（車）を通行させることが出来、柔軟な対応が可能となる。また今回の交渉では機外対策やケーブル交換等の設備更新等の一定の予算化も示され、いずれも国労の要求が通った形だ。一方で、閑散線区とそれ以外の線区に分割することや全踏切に踏切支障報知装置（PB）を設置するには至らず、課題として残った。加えて施行日が4月1日となっており、多くの現場に周知されていないことが地本安全問題プロジェクト会議で明らかになっており、地本は早急に支社に周知を求めていることとした。

# アスベスト被害のない被災地の復興を

## 仙台市内でシンポジウム

3月20日、仙台市内で被災地におけるアスベスト被害を防止する目的でシンポジウムが開催された。

「『アスベスト被害のない被災地の復興を』東日本大震災から2年、これからのアスベスト対策を考える集いin仙台」と題したシンポジウムは、特定非営利活動法人・東京労働安全衛生センターが主催。

地本アスベスト対策委員会から佐藤勝事務局長が参加したのでその報告を一部掲載する。

### 第一部（シンポジウム）

1・講演「被災地のがれき処理状況の現状と課題」

◆吉岡敏明氏（東北大学大学院環境科学研究科教授）

○大災害時、市と東北大学は協力し対応する協定を締結。災害廃棄物の処理方法について提言してきた。

○阪神・淡路大震災時、災害廃棄物は全て埋め立て処分したが、今回は廃棄物を再利用する方向。

○仙台市は独自で処理し他の市町村は宮城県が対応。

○作業員に対するアスベスト教育は実施したが完全ではなく、埋め立て処分になった場合の指導や対応が必要。

2・報告「被災地のアスベスト調査報告と対応の提言」

◆外山尚紀氏（東京労働安全センター・労働衛生コンサルタント。一目瞭然にした。

○石巻市にアスベストプロジェクトを立上げ、市民・解体業者の作業員を対象に特別教育を4回実施し270人が受講。石綿作業主任者技能講習は2回実施し、50人が修了。

○経済発展と共に輸入アスベストが増加。60〜80年をピークに1千万トンが輸入され多くは建材に使用。

○05年6月、尼崎市のクボタ工場の労働者と周辺住民

○マスクを使用せず解体作業を行なっている場合は石巻市を通じ、即時中止させ散水対応。

○今後の活動と課題。アスベスト使用建物の把握と早急な教育の徹底。除去業者の技量向上・検査方法の確立・管理監督の重要性の認識。

3・報告「被災地の健康影響調査報告」

◆広瀬俊雄氏（仙台錦町診療所・産業医学センター所長）

○がれき置き場周辺の方々の健康調査を実施の結果、皮膚病が多発しており、がれきを撤去すると病気が低下した。

○仮設住宅の住人の飲酒と喫煙が増加。先行きが見えない苛立ちが背景か。対策が急務。

4・報告「阪神・淡路大震災の復旧作業における労働実態」

◆南慎二郎氏（立命館大学グローバルイノベーション研究機構研究員）

○震災後の作業に対する作業員への調査報告。①建設業（含解体）に従事58%、②アスベストの危険性認識者48%、③作業中のアスベストとの接触あり63%、④アスベスト関連の所見あり6%であり、建設労働従事者の特性が明らか。

○東日本大震災での従事者にはアスベストや防塵方法に関する認識と対応の実行が必要。

## 仲間の異動

4月1日付

駅業務委託関係（出向）

○小室 勝則さん

○高橋 和彦さん

○佐藤 康司さん

（長町駅から）

槻木駅（出向）

○菅野 等さん

国見駅（出向）

○千葉 庸逸さん

宮城野原駅（出向）

○今野 一郎さん

陸前高砂駅（出向）

陸前高砂駅（出向）

駅業務委託に伴う異動

○曾我 浩之さん

陸前高砂駅↓塩釜駅（本線）

○橋本 秀夫さん

東仙台駅↓岩切駅（在勤指定管理駅）

○鈴木 浩次さん

東仙台駅↓利府駅（在勤指定の変更）

○佐藤 智弘さん

国見駅↓愛子駅（在勤指定解除）

## お悔やみ

宮城県支部 貨物宮城分会

四電 範雪 様（52才）

3月29日ご逝去

仙総所支部 台車分会

高橋 和彦 様（59才）

3月31日ご逝去

故人の生前のご活躍と国労に対するご尽力に心より感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

4月1日付

出向戻り

○安部 修一さん

東北交通機械↓新幹線総合車両センター

一般移動

○目黒 賢一さん

陸前原ノ町駅↓岩切駅

○木藤 昭弘さん

仙台駅↓福島駅

○真木 誠さん

福島総合運輸区↓仙台運輸区

○野中 裕治

郡山駅↓会津宮下駅

○大友 潤一さん

福島駅↓郡山駅

○伊達 宏仁さん

仙台駅↓長町駅

4月10日付

○高木 文男さん

郡山駅↓喜多方駅

## 退職のお知らせ

3月31日付

久保 欽司さん

郡山信通区

清川 末広さん

東北工務事務所

小瀬川 亮一さん

東北自動車支部

相沢 宏光さん

仙台駅連合

佐々木 勝紀さん

福島地区（テクノ福島）

エルダー退職

志賀 俊則さん

小牛田運輸区（テクノ小牛田）

佐藤 敏勝さん

郡山駅連合（ビジネス駅ねっと）

長い間お疲れ様でした



## 郡総で偽装請負？

郡山総合車両センターで、一部作業の取り扱いをめぐって、「偽装請負」の疑義が高まっている。

「郡工情報 第376号 4月3日」によれば、業務委託された倉庫の棚卸を直轄で行ったが、その際業務委託先会社社員が棚卸に使用する機器の取り扱い説明を直轄社員に説明しており、「請負法違反の疑い」があるという。また、棚卸作業そのものについても現場では、業務は委託したが「部品はJRのものであるからそれを管理するのは当然JRである」と説明され、一方で支社との団体交渉では、「当該の倉庫は委託されているのだから、棚卸も当然委託先会社自らが実施するもの」と返答がされており、二通りの返答に現場は困惑しているという。